



フラックス 自然体いっぱいのギャラリー。●943 N. Hill St. Los Angeles  
(1)213-621-4011, 12時~20時, 月曜・火曜休。http://www.fluxgallery.com

リリス・ロケット 友人に誘われて陶器に夢中になる。その後はさまざまな工房で働き、昨年2月 (Flux) をオープンさせた。



# Los Angeles

〈flux〉に見る、アートな生活陶磁器との暮らし方。

昨年2月末、チャイナタウンにオープンしたばかりの(Flux)。オーナーで陶芸家のリリス・ロケットさんは地下にスタジオを構え、2階にシネマトグラフィのメインと住む。この建物とは会ったから、こういう形態でギャラリーができる」と語る彼女。今では13名ほどの作家の手作り生活陶器作品を抱え、しんにはなかった陶芸ギャラリーとして、デザイン志向の強い人たちからも支持を得ている。ほとんどがカリフォルニア・ペーという作家たちとは、さまざまな工房での作業や、純粋に作品を通して出会い、自然に現在の集合体が育ってきたのだという。もともと写真家だったリリスさんをはじめ、ペインターや彫刻家、建築家に至るまで、ここに集う個々には陶芸以外の分野でも活躍してきた人も多い。ベテランから新進作家まで、50年代〜70年代の西海岸スタイル確立期に敬意を払いつつ、自由自在に自己の世界に邁進している。まさにネオ・カリフォルニアンの発表の場なのだ。

〈flux〉で扱う注目の作家たち。



Lilith Rockett

磁器の透明性と光の関係に魅せられているという彼女の作品は、一つでもよし。また重ねてみたり、背の高さの違うものを重ねて置いたりしても楽しめる。



Sandy Simon

リーチ・ボタリーにも種を置いたことのあるWarren MacKenzieに学び、パークレーを拠点に活動。陶芸ギャラリーのTRAXも運営。http://www.traxgallery.com



Maria White Mebane

オーガニックなフォルムや手触りを追求。手作りだからこそ、この表情が生まれる。(flux)の初個展を行った彼女は現在は地下スタジオにて制作。



Adam Silverman

シンプルなフォルムに表現豊かな釉薬使いで注目のAbwater Potteryを主宰。今年3月には大規模個展を(flux)にて開催。スペース全体がアダム作品で埋まる。http://www.abwaterpottery.com

卓 越した審美眼により収集された家具・調度品、写真、絵画、美術品を所有すると名高いカール・ラガーフェルド。器ならどんな秘蔵があるのか気になる。その一端を垣間見れるのが、昨年刊行の本人撮影による陶器の写真本「レ・ヴァーズ・ド・シブル」だ。バスク地方の小漁村、シブルに、「幻の」陶器が生まれたのは1920年代初頭。大戦から帰還した3人の男がいまなり創設したシブル焼き。彼らの素朴な焼き物にはなぜかしら、古代ギリシャ神話の魅力的なモチーフが付けられた。骨董の扱いものではなく、自体が「グレコバスク」と呼んで恥じない独自の趣を有す。描かれた人体はバスク人の逞強な体躯であり、スタイルにはアールデコが薫る。が、わずか10年にして彼らのシブル焼きは姿を消した。今では本物の古ギリシャ骨董より高値をつけるこれらの器は、カールの所蔵。その魅力を現代的な映像に収めた手続は、さすがです。



写真集の中身はこんな感じ。古代ギリシャ様式は1920年代のモード&グラフィックにも影響を与えたそうだ。©Karl Lagerfeld

# Paris

美術コレクター、ラガーフェルドの新器本。



2005年刊行「レ・ヴァーズ・ド・シブル」(staid)。カールの私蔵陶器コレクションを自身で撮影。女性裸体モデルと神話の物語が輝き出す美しさ。15ユーロ。